

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策I-2-1  
売れる農林水産品・加工品づくり

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

林業課長 前島 和弘

電話番号

0852-22-5167

|         |   |  |
|---------|---|--|
| 事務事業の名称 | 県有林整備事業   |  |
| 目的      | (1) 対象  | 県民   |
|         | (2) 意図  | 森林資源の育成と、公益的機能の高度発揮を両立した森林の管理・経営を実践することにより持続的な森林経営の普及、啓発を図る。 |
| 事業概要    | 県有林管理・経営計画に基づき、森林施業の実施、林産物の生産、林内路網など県有林施設の維持管理を行うと共に、模範的な森林管理・経営を実践する県有林を利用する研修等を通じて、林業関係者への普及、啓発を図る。 |  |

## 2. 成果参考指標

| 成果参考指標名等 |                      | 年度    | 27年度 | 28年度 | 29年度  | 30年度 | 31年度 | 単位 |
|----------|----------------------|-------|------|------|-------|------|------|----|
| 1        | 指標名 県有林での林業普及研修等受講者数 | 目標値   |      | 65.0 | 65.0  | 65.0 | 65.0 | 人  |
|          |                      | 取組目標値 |      |      |       |      |      |    |
|          | 式・定義 研修等受講者数         | 実績値   | 39.0 | 46.0 | 101.0 |      |      |    |
|          |                      | 達成率   | -    | 70.8 | 155.4 | -    | -    | %  |
| 2        | 指標名                  | 目標値   |      |      |       |      |      |    |
|          |                      | 取組目標値 |      |      |       |      |      |    |
|          | 式・定義                 | 実績値   |      |      |       |      |      |    |
|          |                      | 達成率   | -    | -    | -     | -    | -    | %  |

## 3. 事業費

|            | 前年度実績 | 今年度計画  |
|------------|-------|--------|
| 事業費(b)(千円) | 9,056 | 11,735 |
| うち一般財源(千円) | 5,583 | 6,918  |

## 4. 改善策の実施状況

|                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況 | ②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む) |
|---------------------|------------------------|

## 5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

- 平成29年度の木材生産量は373m<sup>3</sup>となった。
- 県有林を利用した研修は4回実施され、受講者数は101名だった。

## 6. 成果があったこと(改善されたこと)

- 県の木材生産量増大に寄与するとともに、木材販売収入と林産物販売収入合わせて約347万円の売り上げとなった。
- フォレストワーカー研修など、県内の林業事業体の受講生の技術向上に寄与した。
- とくに公社造林推進協議会主催の集材フォーラムでは73名の参加者があり、集材技術の向上に向け情報提供できた。

## 7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

### ①困っている「状況」

- 県有林をフィールドにした研修は限られているため、森林組合や林業事業者等の現場職員の適切な森林管理に向けた技術向上に十分応えられていない。

### ②困っている状況が発生している「原因」

- 各研修内容に適した条件の良いフィールドの確保が困難。
- 研修等主催機関へのフィールドを使ってもらうための企画、情報提供が不足している。

### ③原因を解消するための「課題」

- 限られたフィールド条件の中で、現場職員の適切な森林技術の向上や持続的な森林経営の普及、啓発につながる研修を企画し、研修等主催機関に研修等のフィールドとしての活用を検討してもらえるよう情報提供していく必要がある。

## 8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- 研修等主催機関へ模範的な森林を有する県有林の情報を提供し、研修等のフィールドとしての活用してもらう。
- 基礎的な技術研修だけでなく、先進的林業機械のデモや新たな技術および知見のための実証試験地としてフィールド提供するとともに、民有林の模範となるような適切な管理、経営を実践する。